

▶▶▶ 「地域の6次産業化」社会実装モデル

本事業は、岩出市との3ヶ年の共同研究事業であり、岩出市根来地区のブランディングの確立と、「特産品開発」を最終目的としたプロジェクトである。

2021年度は最終年度であり、前年度に引き続き、岩出市の行政や商工会青年部員をはじめとする有志プロジェクトチームと共に特産品開発について検討と試作を重ねた。協議の結果、ソフトクリームと市内で生産し購入可能なあられを使用した「根来ばふえ」というスイーツ商品を開発し道の駅等で販売することができた。

消費者アンケート等を行った結果、商品は消費者からも高い評価を得ることができ、来年度以降、市内の各飲食店での販売展開を検討している。



▶▶▶ わかやま型果樹産地労働力確保支援システム

生産者の高齢化等により生じる地域の労働力不足を補うために、労働力支援の一方策として、JAグループ和歌山農業振興センターでは「JAグループ和歌山農業求人サイト」を開設し、県内に5箇所あるJAの求人情報を掲載し支援している。それらに加え、大学独自の取り組みとして、学生によるワーキングホリデーによる労働力支援の可能性を検討している。

引き続き、県や他のJAグループ、個々の農家とも連携し、和歌山県の農業の特異性を活かした労働力確保支援システムについて検討と改良を行っていく予定である。



▶▶▶ 農家民泊(農村女性)研修プログラム開発

2020年に紀美野町の民泊受け入れ家庭に対して行った研修等への希望調査の結果を元に、紀美野町、紀美野町民泊協議会の協力を得て2021年度は保健所による「コロナ対策講習」、講師による料理や体験の様子の動画撮影とアーカイブ化を行った。

内容は、コロナ禍後の県内外からの体験学習等の受け入れ、国内外の一般宿泊客受け入れを見据えた「紀美野の家庭料理」や「フルーツ・ベジタブルアート」、「草木を使った野遊び体験」の記録とレシピ作成である。

またコロナ禍後のインバウンド対応のための、受け入れ時(緊急時等)の指さしパネルや民泊家庭の紹介等を多言語で作成した。



▶▶▶ 関係人口(地域おこし協力隊)プロジェクト

和歌山県の協力を得て、2021年6月22日に地域おこし協力隊に関する準備会を発足し、7月29日にオンラインにて、第1回和歌山県地域おこし協力隊ネットワークセミナーを開催した。

さらに11月18日には協力隊のネットワークを行い、年明け2022年2月17日に、第2回目の和歌山県地域おこし協力隊ネットワークセミナーをオンラインにて開催し、行政や地域の隊員から事例発表などを行った。また発表後は、グループに分かれ参加者等による意見交換等の場も設けた。

今後も地域を越えた和歌山県内の地域おこし協力隊の横の連携や卒業した隊員とのネットワークづくりに努めていく予定である。



▶▶▶ 棚田保全と都市農村交流

本事業は和歌山県との共同研究事業である。

2021年度は、静岡県、徳島県上勝町の棚田保全地域へ、和歌山県職員と共にヒアリング調査に行き、棚田活動の様子や課題等を協議会や住民らから聞くことができた。

今後現地視察の報告書を作成し、現在、当センターが関わっている紀美野町にて、支所職員や住民達を対象に報告会を開催するとともに、都市農村交流活動を導入した新たな棚田保全地域のあり方に向けて、各種の提言活動を行っていく。



▶▶▶ 地域資源循環型農商工連携の可能性

SDGsやゼロカーボンの推進などにみられるように、持続可能な社会への変革が求められている。

本プロジェクトにおいては、ミカンジュースの搾りかすの再利用や未利用魚の活用など、和歌山県が有する地域資源の付加価値化のみならず、「地域循環」の視点から検討するものである。また、これらの取り組みによる「地域内経済循環の見える化」についても検討している。これらの取り組みは、学内の学部横断型プロジェクトであることに加え、他大学との連携プロジェクトでもある。

